



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	鈴木 秀洋		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	2305	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門総合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1- E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる DP4- F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5- J 〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6- K 〔表現力・対話力〕 文章および口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7- L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8- M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発◇（5%） C1 倫理観と公共心◇（5%） E1 学識・専門技能◎（25%） I1 理解力・分析力◇（5%） J1 創造的挑戦力・批判的思考力○（15%） K1 表現力・対話力○（10%） L1 協働力・牽引力◎（25%） M1 省察力○（10%）		
教員の実務経験	東京23区において、20年以上公務員として、法務、人事、監査、秘書（総務課長補佐）、危機管理課長、男女（ジェンダー）課長、児童福祉（子ども家庭支援センター所長）等の実務経験がある。 担当教員の实務経験を踏まえて理論と実務を架橋するゼミを行う。実務経験を踏まえた具体的事案の提示等はすべての授業会において行う（1回目から15回）。		
成績ターゲット区分	3発展期～4完成期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文に繋がる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討など実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一字資料による個人研究の		

	作業を開始し、指導します。授業形態は演習により行います。 (キーワード) 危機管理 社会課題の解決 個々人の人権尊重 安全安心 法の支配 授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。	
授業の趣旨	■副題 社会的課題に対して、危機管理学と法学を土台に解決手法を研究する。 ■授業の目的 卒業論文に向けた発表、討議、講評を繰り返すことにより、①自己啓発、②倫理観と公共心、③学識・専門技能、④理解力・分析力、⑤創造的挑戦力・批判的思考力、⑥表現力・対話力、⑦協働力・牽引力、⑧省察力を身に付けることができる。 ■授業のポイント 社会で日々起こる紛争事例等について上記コンピテンスの力をもとに解決策を考えることができる。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる(1回) ・問題点や論点を探求し、自らの見解を持つことができる(2回～7回) ・自らの見解に対する反論を学び、更に再反論を展開できる(8回～10回) ■論理的に解釈して知見を見出すとともにその成果を論文にまとめ表現し発表できる。 ・自らの主張を支えるエビデンスを収集し分析することができる(9回～15回) ・文献の調査の仕方、引用の仕方を学ぶ(6回～10回)。	
成績評価方法	①卒業論文テーマの事前調査・研究、②卒業論文としての完成度、③卒業論文についての分析・考察力(必要に応じて発表力・討議状況) 上記について、下記を踏まえて評価する。それぞれの割合は①30%、②40%、③30% (評価方法)調査によるエビデンスを踏まえて多角的な視野から自らの見解を確立できているか評価します。 (フィードバックの方法)ゼミの時間内に講評を行います。 B1 自己啓発◇(5%) C1 倫理観と公共心◇(5%) E1 学識・専門技能◎(25%) I1 理解力・分析力◇(5%) J1 創造的挑戦力・批判的思考力○(15%) K1 表現力・対話力○(10%) L1 協働力・牽引力◎(25%) M1 省察力○(10%)	
履修条件	行政法と行政過程Ⅰ、行政法と行政過程Ⅱ、行政法と行政過程Ⅲ、地方自治と法、災害と法を履修済みであることが望ましい。	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評(教員の実務経験を踏まえて。以下同じ) ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習(120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習(120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
	2	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習(120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習(120分)

	ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
3	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
4	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
5	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
6	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
7	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
8	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏

	まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
9	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
10	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
11	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
12	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
13	①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)(教員の実務経験を踏まえて) ③予習 (120分) 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習 (120分) ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。

	14 ①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
	15 ①授業テーマ 卒業論文に関する発表・討議・講評 ②授業概要 発表者は、自らが分析を行ったテーマにつき、発表を行い、ゼミ生全員でディスカッションを行う。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）（教員の実務経験を踏まえて） ③予習（120分） 自分の卒業論文の関連資料の収集・分析を行い、卒業論文発表の準備を行う。 ④復習（120分） ゼミでのディスカッション、教員による講評を踏まえてさらに卒業論文をブラッシュアップする。
関連科目	ゼミナールⅠ～Ⅳ（RMGT4601～4604）
教科書	①鈴木秀洋（2021）『（改訂）自治体職員のための行政救済実務ハンドブック』（第一法規）ISBN978-4-474-07383-8、②鈴木秀洋（2021『社会的弱者にしない自治体法務』（第一法規）ISBN978-4-474-07165-0 ③鈴木秀洋（2019）『子を、親を、児童虐待から救う』（公職研）ISBN978-4-87526-392-0。④鈴木秀洋（2023）『自治体職員のための L G B T Q理解増進法逐条解説ハンドブック』（第一法規）ISBN978-4-474-09421-5。 上記四冊。
参考書・参考URL	鈴木秀洋研究室HP http://suzukihidehiro.com/
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。
研究比率	■災害マネジメント15%、パブリックセキュリティ65%、情報セキュリティ15%、グローバルセキュリティ5% ■危機管理学40% 法学60%

